

# 第3回中小家畜動物臨床小委員会の会議概要 (産業動物臨床部会常設委員会小委員会)

**I 日時** 平成19年5月1日(火) 13:30~17:00

**II 場所** 日本獣医師会・会議室

## III 出席者

**【委員長】** 横尾 彰 (社団法人 日本獣医師会理事 (産業動物臨床副部会長))

**【委員】** 麻生 哲 (産業動物臨床部会産業動物・家畜共済委員会委員)

大井宗孝 (日本養豚開業獣医師協会理事)

酒井淳一 (産業動物臨床部会産業動物・家畜共済委員会委員)

坂井利夫 (有限会社 坂井利夫家禽・家畜診療所代表取締役)

佐藤 優 (株式会社 秋田中央鶏病研究所代表取締役)

渡辺一夫 (株式会社 ピグレッツ代表取締役)

**【本会】** 大森伸男 (専務理事) ほか

## IV 議 事

- 1 第2回中小家畜動物臨床小委員会の協議結果 (説明)
- 2 中小家畜動物臨床小委員会報告の取りまとめ (協議)
- 3 その他

## V 会議概要

開会にあたり横尾委員長から、これまでの議論の結果を報告書(案)として取りまとめたので内容を確認いただき、さらに、中小家畜動物臨床全般の今後あるべき方向と具体的な方策について議論いただきたい旨の挨拶がなされた。

### 1 第2回中小家畜動物臨床小委員会の協議結果 (説明)

事務局から、資料に基づき第2回委員会の会議概要が示され、会議では①中小家畜動物臨床の現状、②中小家畜の生産・流通において望まれる動物医療提供体制、③中小家畜専門獣医師の育成、④今後の対応に関する提言について協議し、報告書については、「日本型巡回・定期診療体制の構築」の部分酒井委員が整理し、さらに全体を委員長と事務局で取りまとめて提出することとされた旨説明された。

### 2 中小家畜動物臨床小委員会報告の取りまとめ (協議)

横尾委員長から、報告書「中小家畜動物臨床の課題と対応(案)」が示された後、全体として、頻出用語の統一(「開業獣医師」、「臨床獣医師」等を「専門獣医師」に、「コンサルタント獣医師」を「管理獣医師」に、「農家」を「生産者」に、「農場」等

を「生産現場」に原則的に統一する等)及び本委員会の議論の方向として、中小家畜については経営指導もできる専門獣医師の育成の必要性が再確認され、次のとおり意見交換が行われた。

(1) 中小家畜動物臨床の現状

ア 「ア」について

(ア) 冒頭の「中小家畜」は、対象動物を具体的に示すため、「豚、鶏などの中小家畜」とする。

(イ) 1行目の「製薬メーカー等による」は、これまでの状況の中で動物医療の提供をメーカーに頼らざるを得なかった経緯もあったことから、「製薬メーカー等によって担われ、」とする。

(ウ) 2行目の「獣医療サービス」、3行目の「動物医療サービス」は、「サービス」が無料という概念と誤解されることから、「動物医療の提供」とする。

(エ) 5行目の「対価を支払っても必要な、」は、HACCPなどの衛生指導等具体的な事例も加える。

イ 「ウ」について

(ア) 冒頭の「養豚・養鶏」は、上記「ア」の(ア)を受け、「中小家畜」とする。

(イ) 2行目の「有効な情報は有料が当たり前」は、技術と情報の両者の提供が重要なことから、「有効な技術や情報には対価を支払う」とする。

(ウ) 3行目の「定着してきているためか、現在は養豚では開業獣医師(全国で50人程度と考えられる。)が主流になってきている。」は、養豚専門獣医師の人数が不明なため後段を省略し、単に「定着している。」とする。

(エ) 8行目の「現状であり、地域における臨床獣医師の充実が課題となっている。」は、文章を簡易にするため、「現状である。」とする。

(オ) 9~14行目の「生産者に有益な情報は有料という意識への転換を図るには、各農場における家畜の飼養環境・常在疾病また、管理方法などの把握は個別の獣医療提供によって行うのは困難であるとの認識を得ることである。また、動物用医薬品の適正使用が確保されれば、抗生物質の乱用やこれによる薬剤耐性菌の増加を防止することができ、畜産物の安全性の確保にもつながるが、」は、記載内容を分かりやすくするため文章を入れ替える等して組みかえる。

(2) 中小家畜の生産・流通において望まれる獣医療提供体制

中小家畜動物臨床の現場においては、獣医師がその役割を十分に果たし得なかった経緯も踏まえる旨の意見が出された。

ア 「(1) 社会の要請と畜産を巡る情勢」について

(ア) 1行目の「鳥インフルエンザ」は、正確を期し、「高病原性鳥インフルエンザ」とする。

(イ) 10行目の「指導の下に行い、その検査は家畜保健衛生所などの公的機関で行い公正を期す必要がある。」は、実態を考慮し、検査機関を行政に限ることとせず、「指導の下で、家畜保健衛生所などの公的機関及び公正な第三者

機関で行うことが求められている。」とする。

(ウ) 13行目の「規制の強化として」は、正確を期し、「規制の国際基準である」とする。

(エ) 16行目の「適切」を「適正」とする

イ「(2) 提供が望まれる動物医療」について

(ア) 「ア 管理獣医師としての総合的な動物医療サービス」について

i 表題の「動物医療サービス」については、前述のとおり、「動物医療の提供」とする。

ii 1行目の「総合的なサービス」については、上記と同様に「総合的な動物医療」とする。

iii 6行目の「なお、獣医師資格のない企業の従業員によるワクチン接種、獣医師の未診療での指示書の発行は、厳しく取締まる必要がある。」については、本章に記載が不要なため、削除する。

(イ) 「エ 生産現場における生産物の安全性の確保 (HACCP)」について

6行目の「指導していれば、HACCPと同様に評価されるべきである。」については、現状を考慮し、「指導していくことにより、HACCPの導入が容易となる。」とする。

(ウ) 「適正な個体診療」について

i 1行目の「農家は生産性を高めるために個体診療を必ずしも必要としていないが、」については、文章上不要なことから、削除する。

ii 5～11行目の「診療技術の普及・向上には家畜共済のネットワークが有効である。しかし、共済獣医師は、一日に複数の農場へ往診する場合もあるので、共済獣医師の農場訪問を敬遠する農場もある。今後はバイオセキュリティを重視し、入場制限を行う農場が増加すると思われ、この傾向は広がる可能性が高い。また、特に養豚においては、現在の種豚共済制度の見直しも必要である。例えば、繁殖豚個体の保証ではなく、繁殖成績の保証に変え、その枠の中で集団検診や個体治療を行えるようにする等の方策が考えられる。」については、家畜共済事業が中小家畜にあまり関わらないことから、削除する。

(エ) 「経営指導と情報提供」について

i 表題の「経営指導と情報提供」については、章の流れから、「その他」とする。

ii 1行目の「コンサルタント獣医師が十分な知識を持って、日常的に農家に情報提供することが望まれる。」については、分かりやすい表現に改める。

(3) 中小家畜動物臨床専門獣医師の育成

ア 「(1) 専門獣医師育成の必要性」について

(ア) 1行目の「ウイルス感染（混合または単独感染）の長期間持続等」については、端的な表現とし、「感染性疾病の常在化」とする。

(イ) 3行目の「対策は無く、診療に携わる、開業、農業共済や農協など農業団

体、家畜保健衛生所、製薬会社、飼料会社、種豚・養鶏会社、コンサルタント業務に携わる各獣医師は、それぞれ個別に生産者に動物医療技術を提供するに留まっている。」については、対策の有無を断定する表現を改める。

- (ウ) 7～14 行目の「また、衛生対策上からの農場を一日に往診することは困難となり、地域の中小家畜動物臨床獣医師の活動が非効率化している。一方、この分野において地域の核となる経験ある獣医師が少ないのが現状である。地域の核となる臨床獣医師がいれば、迅速に動物医療を提供でき、地域生産者の衛生意識向上に寄与できる。併せてコンサルタント獣医師は核となる臨床獣医師との関係を密にすることで、高度な動物医療や技術情報の提供や効果確認を的確に行うことができる。行政は臨床獣医師を仲介として生産者との関係をより緊密にできる。」については、文章をわかりやすく整理する。

イ 「(2) 専門獣医師育成のための方策」について

「イ」の7行目の「農業共済団体、全国的に活動するコンサルタント獣医師、研究機関および生産者団体等」については、団体等の記載を整理し、「畜産関係団体、研究機関等」とする。

(4) 今後の対応

ア 「(2) 巡回・定期診療体制の構築」について

(ア) 「イ 日本型巡回・定期診療の内容、普及・定着のための方策」について

- i 「ア」の2行目の「巡回指導が役立つ」については、消費者も考慮し、「巡回指導が有益である」とする。
- ii 「ウ」の1行目の「生産成績を認識する」については、表現の正確を期し、「自らの生産成績を評価する」とする。

## IV まとめ

- (1) 横尾委員長から、報告書については、本日の議論を踏まえ、委員長、酒井委員及び事務局で再度整理し、第5回産業動物・家畜共済委員会へ報告書として提出するとされた。
- (2) 大森専務理事から、本委員会は、産業動物・家畜共済委員会における産業動物獣医師の確保対策についての議論の中で、中小家畜動物については別途検討する必要があるとの意見を受け、小委員会として設置され、委員会各位には、約1年間、生産者の期待に応えた動物医療の提供ができる中小家畜専門獣医師の人材確保、育成について総合的に議論いただいた。各位のご尽力に対して改めてお礼申し上げる旨挨拶がなされた。